

(2) 米づくり

村のほとんどの農家は米づくりをしています。米は一年に一度しか収かくできないので農家の人たちは秋にどれくらいとれるのかが一番気になります。

春になると、肥料をまぜた土と消毒した種もみをまき、決まった温度にして苗を育てます。その間に田に肥料をまいて田おこしをしたり、水を入れて代かきをしたりします。苗の葉が、1ヶ月ほどして10cmぐらいに伸びたとき田植えをします。

夏には、水が無くならないように田を見て回ったり、雑草を取ったり、雑草が生えないように除草剤をまいたりします。また病気や害虫から根を守るために消毒を1~2回ぐらいいします。

秋に稲が実ると、刈り取り、脱穀、乾燥、籾すりをして、農協に出荷します。

米作りは、春から秋にかけて数多くの仕事があります。

しかし、最近では、田おこし、代かき、田植え、刈り取りの仕事を大型の乗用機械を使ってするようになりました。

このように、機械によって楽に仕事ができるようになったのですが、稲が実る時期に日照不足、低温、台風、干ばつなどにより、不作になることもあります。だから、農家の人たちの心配は尽きません。

○米作りの作業ごよみ

